

カツオ 東部太平洋

Skipjack, *Katsuwonus pelamis*



管理・関係機関

全米熱帯まぐろ類委員会 (IATTC)

生物学的特性

- 最大体長・体重：尾叉長 100 cm・30 kg
- 寿命：6 歳以上
- 成熟開始年齢：1 歳
- 産卵期・産卵場：周年・表面水温 24℃以上の海域
- 索餌期・索餌場：熱帯・温帯域
- 食性：魚類、甲殻類、頭足類
- 捕食者：マグロ・カジキ類、サメ類等

利用・用途

缶詰原料等

漁業の特徴

現在の漁獲はほとんどがまき網による。まき網では、集魚装置 (FAD) を用いる操業と素群れを対象とする操業があり、漁場はカリフォルニア沖から北部南米沖である。国別ではエクアドルが約半分を占め、次いでパナマ、コロンビア、米国等が主要な漁獲国となっている。日本は本海域でカツオを主対象とした漁業を行っておらず、漁獲量ははえ縄によるわずかな量のみである。

漁獲の動向

1950年代までは竿釣りを主として約5万トンの漁獲であったが、1960年代から竿釣りは急速に減少し、代わってまき網による漁獲が主となった。1990年代から漁獲量は増加傾向にある。近年の総漁獲量は20万~30万トンを維持している。2019年は約34.8万トンであった。

資源状態

最新の資源評価は IATTC 事務局により 2012 年に 4 つの手法 (a. 漁業・生物学的指標値; b. 標識データ解析; c. サイズ組成資源評価モデル; d. 空間資源動態モデル) により行われた。相対資源量は 2000 年以降増加に転じ現在まで横ばいで推移している。相対加入量も同様の傾向を示し、2000 年以降横ばいで推移している。2020 年には、2000 年から 2019 年までの資源量指数 (まき網の操業種類別 (イルカ付き、素群れ、FAD 付き) の操業回数、漁獲重量、平均体長) が示され、FAD 操業の増加により漁獲死亡が増加していることが示唆された。漁獲の大半を占めるまき網 FAD 操業の指数は近年 (2015~2019 年) 高く推移しているが、指数のみから資源状態を判断することは難しいため、資源水準、資源変動は調査中とした。

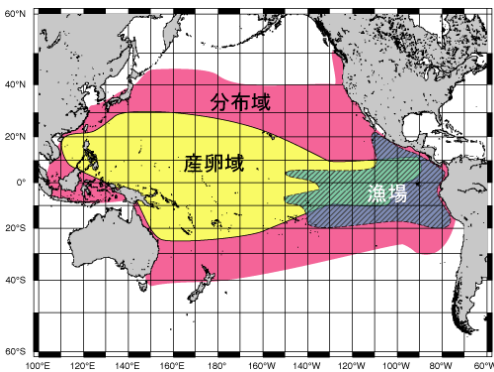
管理方策

本種を対象とする保存管理措置は IATTC において導入されておらず、メバチ・キハダの保存管理措置として、まき網漁業に対し 72 日間の全面禁漁及び沖合特定区での 1 か月間の禁漁が導入されており、結果的に本種に対する漁獲努力量は制限されている。

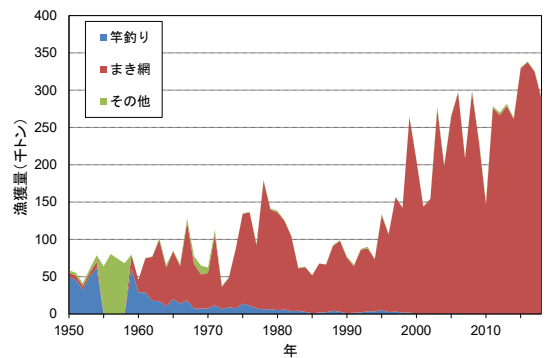
2016 年 6~7 月に開催された IATTC 第 90 回年次会合において、以下を内容とする漁獲管理ルールが合意。

- ①最も厳しい管理を必要とする魚種については、まき網漁業に対する措置を複数年固定できるようにし、漁獲死亡率を、最大持続生産量 (MSY) を達成する水準以上としないよう維持する。
- ②漁獲死亡率が限界管理基準値 (親子関係を想定し、加入が初期資源加入量の 50% に減少する状態における産卵親魚量を維持する漁獲死亡率) を超過する確率が 10% 以上となる場合、50% の確率で MSY を達成する水準以下となるまで削減し、かつ限界管理基準値を超過する確率を 10% 以下とする措置を可能な限り早期に実施する。
- ③産卵親魚量が限界管理基準値 (親子関係を想定し、加入が初期資源加入量の 50% に減少する状態における産卵親魚量) を下回る確率が 10% 以上となる場合、50% 以上の確率で目標水準 (MSY を達成する水準の産卵親魚量) まで回復させ、かつ限界管理基準値を下回る確率を 10% 以下とする措置を 2 世代以内 5 年以内のうちより長い期間中に実施する。
- ④まき網漁業以外の漁業に関する追加規制を IATTC 事務局職員が勧告する際には、対象資源に与える相対的な影響も踏まえ、まき網漁業で採択された措置と可能な限り一貫性を持たせる。

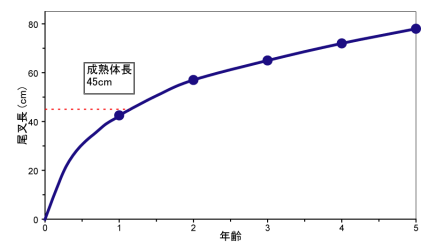
カツオ（東部太平洋）の資源の現況（要約表）	
資源水準	調査中
資源動向	調査中
世界の漁獲量 （最近5年間）	29.0万～34.8万トン 最近（2019年）：34.8万トン 平均：32.7万トン（2015～2019年）
我が国の漁獲量 （最近5年間）	18～33トン 最近（2019年）：32トン 平均：25.6トン（2015～2019年）
管理目標	MSY
資源評価の方法	サイズ組成資源評価モデル、空間資源動態モデル（SEAPODYM）
資源の状態	FAD操業の増加により、漁獲死亡が増加傾向にあると考えられる
管理措置	特定の措置はなし（メバチ・キハダの保存管理措置として、まき網漁業に対し72日間の全面禁漁及び沖合特定区での1か月の禁漁が導入されており、結果として本種に対する漁獲努力量は制限されている）
最新の資源評価年	2012年（2020年に指数のみ更新）
次回の資源評価年	未定



太平洋におけるカツオの分布と漁場



東部太平洋におけるカツオの漁法別漁獲量（1950～2019年）



東部太平洋におけるカツオの成長曲線

東部太平洋のまき網の操業種別（イルカ付き、素群れ、FAD）のカツオ資源指数（2000～2019年）それぞれの指数（a：操業数、b：漁獲重量、c：操業毎の漁獲尾数、d：体長）は平均1で基準化された相対値で示されている。図中2つの点線はそれぞれ10、90パーセンタイルを示す。